

Art WEEK TOKYO 東京 NOVEMBER 5-9, 2025

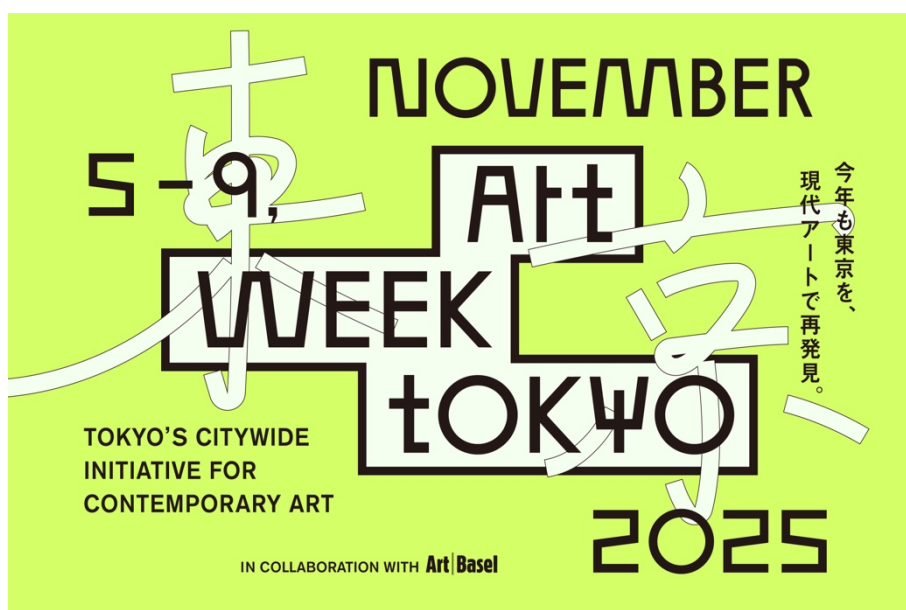
www.artweektokyo.com

プレスリリース：2025.04.23

一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム

報道関係者各位

「アートウィーク東京」が2025年も開催決定！ AWT BARのアドバイザーに妹島和世が就任&ビジュアルアイデンティティも刷新



一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームは、日本の現代アートの創造性と多様性、そしてそのコミュニティを国内外に紹介する国際的なアートイベント「アートウィーク東京（略称：AWT）」を2025年11月5日（水）－9日（日）の5日間にわたり開催します。

現代アートをもっと楽しむ5日間

アートウィーク東京（AWT）は、東京における現代アートの創造性と多様性を国内外に発信する年に一度のイベントです。いわゆる「メイン会場」はありません。都内50以上の美術館・ギャラリーがそれぞれ開催する展覧会やAWTが独自に開催する展覧会やシンポジウム、バーといったプログラムのほか、音楽イベントや建築ツアー、多様な関連イベントを自由に巡ることで東京のアートやカルチャーを様々な視点からお楽しみいただける分散型のイベントです。

2025年も東京を代表する50以上の美術館・ギャラリーが参加。スペースアンとエスパス ルイ・ヴィトン東

京の参加も決定しました。

都内に点在するこれらのアートスペースや AWT のプログラム会場を乗り降り自由な無料のシャトルバス「AWT BUS」が巡回します。「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」の一環として運行するこのバスに乗って複数のアートスペースを巡ることで、それぞれの個性、そして東京の現代アートの「いま」を感じられます。

ビジュアルアイデンティティを刷新

2025 年よりアートディレクターにグラフィックデザイナーの上西祐理が就任。ビジュアルアイデンティティも新しくなりました。

アートディレクターのコメント

「過去から未来へと貫かれる人類の創造性の歴史と、現代の東京のアートシーンという今この一地点を包括的に表現すべく、文字を起点としたビジュアルアイデンティティを展開していきます。それに伴い、記号的でジオメトリックなアルファベットから成るオリジナルの欧文フォントも制作。石器の時代から営まれてきた人類の創造性を太古の文字に見出し、それらを未来につないでいくというような思いを託しました。一方、「東京」の自由な文字はたゆたう現代を表しています。今年の「AWT FOCUS」で中心に据えられる「現実／リアル」から着想したライムイエローのキーカラーが、AWT を鮮やかに彩ります」



上西祐理（うえにし ゆり）

アートディレクター／グラフィックデザイナー。1987 年生まれ。東京都出身。2010 年多摩美術大学卒業、同年電通入社、2021 年に独立し、北極設立。主な受賞歴に東京 ADC 賞、JAGDA 新人賞、JAGDA 賞、CANNES LIONS 金賞など。趣味は旅と雪山登山。旅は現在 45 カ国達成。

「AWT FOCUS」「AWT VIDEO」の監修者が決定！

買える展覧会「AWT FOCUS」のテーマは「現実／リアル」

2023 年に「買える展覧会」として始まった「AWT FOCUS」を、現存する日本最古の私立美術館である大倉集古館（虎ノ門）を会場に今年も開催します。

美術館での作品鑑賞とギャラリーでの作品購入という2つの体験を掛け合わせたこの展覧会は、毎年変わるテーマに沿って現代アートをキュレーションする試み。出展作品はすべて購入可能です。第3回となる2025年の監修はアダム・シムジック。国際芸術祭「ドクメンタ14」で芸術監督を務めた彼が、アートを通じて「現実／リアル」について考えます。



Photo © Gina Folly

アダム・シムジック

チューリッヒ美術館のDas Büro für geistige Mitarbeitキュレーター。2014年から17年まで国際芸術祭「ドクメンタ14」のアーティスティック・ディレクターを、03年から14年までクンストハレ・バーゼルのディレクター兼チーフ・キュレーターを務めた。22年にチューリッヒに現代アートと文化のための非営利団体 Verein by Association を設立。

選りすぐりの映像作品を紹介

AWT 参加ギャラリーのアーティストが手掛ける映像作品から選りすぐりのビデオプログラムを上映する「AWT VIDEO」。2025年は東京都現代美術館の学芸員であり、「恵比寿映像祭」の創設も担った岡村恵子が監修を務めます。



Photo by Art Week Tokyo

岡村恵子（おかむら けいこ）

東京都現代美術館事業企画課企画係長。学芸員として東京都現代美術館（1995－2007年／21年現在）、東京都写真美術館（07－21年）で数々の企画を手掛ける。09年に映像とアートの国際フェスティバル「恵比寿映像祭」の創設を担う。21年開催の第13回まで毎年携わり、映像インスタレーションや映画、パフォーマンス作品を領域横断的に数多く紹介した。

SANAA 妹島和世が AWT BAR アドバイザー（建築家選定）に就任！

会期中、南青山に特設されるポップアップバー「AWT BAR」は、新進シェフによるオリジナル料理やアーティストとのコラボレーションカクテル、音楽やパフォーマンスといったイベントが楽しめる憩いの場。

今年はバーのアドバイザーに、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞やプリツカー賞、王立英国建築家協会ロイヤル・ゴールド・メダルなど数多くの受賞歴を持つ建築家ユニット SANAA の共同主宰であり、東京都庭園美術館の館長も務める妹島和世が就任。バーの設計を担当する建築家の選定を担います。また、妹島は 24 年に引き続き、東京の街に佇む名建築を巡るツアー「TOKYO HOUSE TOUR」の監修も務めます。



© SANAA

妹島和世（せじま かずよ）

建築家。1956 年茨城県生まれ。81 年日本女子大学大学院修了。87 年に妹島和世建築設計事務所を、95 年に西沢立衛と SANAA を設立。ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞*、プリツカー賞*、紫綬褒章、RIBA ゴールドメダル*などを受賞。主な建築作品に金沢 21 世紀美術館、Rolex ラーニングセンター、ルーヴル・ランスなど。現在、ミラノ工科大学教授、横浜国立大学名誉教授、東京都庭園美術館館長。（*は SANAA として）

人気プログラム「AWT TALKS」も開催

初心者からアート通まで、幅広い層を対象とした「AWT TALKS」も開催。国内外のキュレーターや思想家を招いたシンポジウムから、オンライントーク、ラウンドテーブル、コレクターを目指す人に向けたガイドツアーやセミナー、未就学児や学生を対象としたアート教育プログラムまで、多彩なプログラムを通じてアートとの身近な接点を生み出し、アートを一歩深く知るための場を提供します。

2025 年度のアートウィーク東京開催に向けて

ディレクター・蜷川敦子のコメント

「東京におけるアートのエコシステムを支援するコミュニティ主導の取り組みとして構想されたアートウィーク東京は、回を重ねるごとに成長を続けています。2024 年は過去最多となる 53 の美術館・ギャラリーが参加したほか、アート好きが集まるミートアップイベントや音楽パフォーマンス、建築ツアーといった多角的な取り組みも加わり、幅広い層の方々にご参加いただきました。関係者と一般参加者の双方からもポジ

ティブな声を多くいただいております。アートウィーク東京が今後も現代アートをはじめとする東京の様々な芸術・文化のハブであり続けるよう、今年もさらに充実したプログラムをお届けできることを楽しみにしております」



Photo by Katsuhiko Saiki

蛭川敦子（にながわ あつこ）

アートウィーク東京共同創設者・ディレクター／タケニナガワ代表。2008年にタケニナガワを設立。新進作家から歴史的な評価の高い作家まで、現代アートの文脈で活躍する日本人作家を国際的にプロモーションする。国外の作家を日本の文脈で紹介する試みも多数企画。アートウィーク東京を主催する一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム共同代表理事。「アートバーゼル」バーゼルの選考委員、および、コロナ禍に生まれた国際的なギャラリーイニシアティブ「Galleries Curate」や、グローバルサウスのアートを取り上げるプラットフォーム「SOUTH SOUTH」に参加。2022年、将来のアートマーケットにおいて先駆となる人物を選ぶ「Artnet Innovators List」に選出。アート界で最も影響力のある人物100人を選ぶ「ArtReview Power 100」に2022-24年に3年連続で選出。

アートバーゼルのコメント

「アートウィーク東京（AWT）は街中を舞台とする地域主導型イベントとして、東京におけるアートのエコシステムを育み、日本の卓越した芸術文化を国内外に紹介してきました。アートバーゼルとAWTのコラボレーションはその価値を高める重要かつ発展的なパートナーシップであり、ギャラリーに対するアートバーゼルのコミットメントの深さと、それを支えるアート業界全体の持続的な発展を願う私たちの思いの表れでもあります。加えて、海外ゲストからの評価の高さは、AWTという唯一無二のフォーマットが東京のギャラリーシーンと豊かな文化的背景をシームレスにつないでいることの証でもあります。AWTの発展とともに、東京は国際的なアートの舞台において欠かせない訪問先としての地位を確立しているのです」

開催概要

アートウィーク東京

名称：アートウィーク東京（欧文：Art Week Tokyo、略称：AWT）

会期：2025年11月5日（水）－11月9日（日） 10:00－18:00

会場：都内の参加美術館・ギャラリー、AWT FOCUS、AWT BAR ほか各プログラム会場

主催：一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム

提携：アートバーゼル（Art Basel）

特別協力：文化庁

アートウィーク東京モビールプロジェクト

名称：アートウィーク東京モビールプロジェクト

会期：2025 年 11月7日（金）－11月9日（日） 10:00－18:00

主催：東京都／アートウィーク東京モビールプロジェクト実行委員会

料金

- AWT BUS の乗車無料。
- 参加ギャラリーの入場無料。参加美術館では AWT 会期中に限り所定の展覧会にて AWT 特別割引適用。
- AWT FOCUS の入場一般有料（金額未定）、学生・子ども無料。

参加施設（2025 年 4 月 23 日時点）

美術館・インスティテューション

アーティゾン美術館
エスパス ルイ・ヴィトン東京
銀座メゾンエルメス フォーラム
国立新美術館
資生堂ギャラリー
シャネル・ネクサス・ホール
東京オペラシティ アートギャラリー
東京国立近代美術館
東京都現代美術館
東京都写真美術館
東京都庭園美術館
森美術館
ワタリウム美術館

ギャラリー

ギャラリー38
アノマリー
ウェイティングルーム
XYZ コレクティブ
MEM
カイカイキキギャラリー
カナカワニシギャラリー
カヨコユウキ
ケンナカハシ
コウサクカネチカ

コタロウヌカガ
ギャラリー小柳
小山登美夫ギャラリー
シュウゴアーツ
スカイザバスハウス
スノーコンテンポラリー
スペースアン
タカ・イシイギャラリー
タクロウソメヤコンテンポラリーアート
タケニナガワ
タロウナス
東京画廊+BTAP
ナンヅカアンダーグラウンド
日動コンテンポラリーアート
ハギワラプロジェクト
PGI
ファーガス・マカフリー
フィギュア
ブラム
ペース・ギャラリー
ペロタン東京
ポエティック・スケープ
ミサコ&ローゼン
ミサシנגallery
ミヅマアートギャラリー
無人島プロダクション
ユタカキクタケギャラリー
ユミコチバアソシエイツ
リーサヤ

※AWT の一覧表記ルールに基づく施設名称表記の 50音順です。

公式サイト <https://www.artweektokyo.com/>
Instagram <https://www.instagram.com/artweektokyo>
Facebook <https://www.facebook.com/artweektokyo/>
X <https://twitter.com/ArtWeekTokyo>
YouTube <https://www.youtube.com/@artweektokyo6594>

「アートウィーク東京」運営体制概要

アートウィーク東京は、アートバーゼルとの提携および文化庁の協力を受け、一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームが主催します。また、都内のアートアクティビティの体験を創出する「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」を、東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会の主催により実施します。

「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」概要

東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会が主催。アートウィーク東京の会期中に都内各地に広がる主要なアートスペースをつなぐ「AWT BUS」を運行するほか、会期前から会期中にかけて子どもや若者、アートコレクターを目指す方などを対象とする様々なプログラムの展開や、国内外のキュレーターを招聘したシンポジウムなどを通じて、幅広い鑑賞者層に対してアートアクティビティの体験機会を創出。国内のアートに対する関心の裾野拡大を目指します。実行委員は、片岡真実（森美術館館長）、小松弥生（東京国立近代美術館館長）、渡邊努（東京都現代美術館副館長）、塩見有子（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT]理事長）、蜷川敦子（アートウィーク東京ディレクター／一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム代表理事）。

「アートバーゼル」概要

世界最高の規模と質を誇る近現代美術のアートフェア「アートバーゼル」。毎年、拠点となるスイスのバーゼルをはじめ、香港、マイアミビーチ、パリで開かれるアートフェアには、世界各地から大勢のアートファンや専門家が集まる。（公式サイト：<https://www.artbasel.com/>）

【過去の開催年のプレスリリースはこちらからご覧いただけます】

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/100658

報道関係のお問い合わせ

アートウィーク東京 PR 事務局（WAG, Inc.）

担当：会津・林・芳賀／TEL：03-5791-1500／Email：awt_pr@wag-inc.co.jp
